



## 新たな自己抗体：抗好中球細胞外トラップ抗体（ANETA）とは

病態解析学分野 教授 石津 明洋

### 研究成果のポイント

- ・顕微鏡的多発血管炎患者の一部で好中球細胞外トラップに対する自己抗体が産生されていることを報告
- ・抗好中球細胞外トラップ抗体の一部は、血漿の持つ好中球細胞外トラップ分解活性を阻害することを証明

### 研究成果の概要

抗好中球細胞質抗体 (ANCA) 関連血管炎の病態形成における好中球細胞外トラップ (NETs) の関与が明らかとなってきた。本来 NETs は生体防御に不可欠な自然免疫機構であるが、過剰な NETs は血管障害の原因となる。本研究では、わが国における代表的な ANCA 関連血管炎である顕微鏡的多発血管炎患者の一部に、NETs に対する自己抗体（抗好中球細胞外トラップ抗体：ANETA）が産生されていることを報告した。NETs は血漿中の NETs 分解因子による分解制御を受けているが、ANETA の一部は血漿の持つ NETs 分解阻害活性に対して阻害的に作用することが証明された。従って、ANETA を有する患者では、形成された NETs の分解が滞り、NETs による血管障害が増強する可能性が考えられる。

## 論文発表の概要

研究論文名 : The presence of anti-neutrophil extracellular trap antibody in patients with microscopic polyangiitis.

(顕微鏡的多発血管炎患者における抗好中球細胞外トラップ抗体の産生)

著者 : 氏名 (所属)

Hattanda F<sup>1</sup>, Nakazawa D<sup>1</sup>, Watanabe-Kusunoki K<sup>1</sup>, Kusunoki Y<sup>1</sup>, Shida H<sup>1</sup>, Masuda S<sup>2</sup>, Nishio S<sup>1</sup>, Tomaru U<sup>3</sup>, Atsumi T<sup>1</sup>, Ishizu A<sup>2</sup>

<sup>1</sup>Department of Rheumatology, Endocrinology and Nephrology, Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University, Sapporo, Japan

<sup>2</sup>Department of Medical Laboratory Science, Faculty of Health Sciences, Hokkaido University, Sapporo, Japan

<sup>3</sup>Department of Pathology, Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University, Sapporo, Japan

公表雑誌 : Rheumatology

公表日 : 2019 年 3 月 20 日

## お問い合わせ先

所属・職・氏名 : 北海道大学大学院保健科学研究所・教授・石津明洋 (いしづあきひろ)

TEL:011-706-3385 FAX:011-706-4916 E-mail: aishizu@med.hokudai.ac.jp